

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立稲葉特別支援学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校		○児童生徒の教育的ニーズに対応できる高い専門性と信頼性を備え、常に児童生徒を主人公にし ながら進化する特別支援学校
	育みたい 児童生徒 像	○人と楽しく関わることができ、社会の一員として自立に向けた確かな力を身につけている。 ○卒業後の姿を具体的に描き、その実現に向け、さまざまな経験を通して、主体的に自分の課題 に取り組んでいる。 ○基本的生活習慣が身につき、心身ともに健やかな児童生徒。 ○「持続力」と「意欲をもって物事に向かう力」を身につけている。 ○自他を大切にする心情や行動力を身につけている。
	ありたい 教職員像	○教育公務員としての自覚と規範意識を持ち、法令や服務規律を遵守するとともに、職員同士、 お互いに対しても適切な助言ができる。 ○自己研鑽に努めるとともに、職員同士、共に学び合い、職務の改善に活かす。 ○特別支援教育に高い専門性を持ち、新しいことへも積極的に挑戦、創意工夫を凝らした授業を 展開する。また職員一人ひとりが、特別支援教育の情報発信者であると共に核となる。 ○特別支援教育のセンターとしての機能を高め、地域への支援や情報発信を積極的に進めてい る。 ○「チーム稲葉」として校務運営等に積極的に参画する。

2 現状認識

(1) 学校の価値を 提供する相 手とそこか らの要求・期 待		〈児童生徒〉卒業後に社会の一員として自立できる確かな力を育ててほしい。 〈保護者〉子どもの教育的ニーズに応じた教育を実践し、生きる力を伸ばしてほしい。 新型コロナウイルス感染防止のための臨時休業中の学びのフォローは、県立学校という一くくり ではなく、本校の児童生徒にあった内容をお願いしたい。保護者への支援もお願いしたい。 〈センター的機能を必要とする機関〉特別な支援の必要な子どもたちへの指導について、専門的な 支援をしてほしい。	
(2) 連携する相 手と連携する うえでの要 望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	〈保護者〉子どものニーズに応じた教育を実践 し、子どもの力を伸ばしてほしい。 〈関係機関〉子どもたちや家庭の課題、あるいは 子どもたちの進路について、学校と緊密に連携 しながら取り組み、解決を図りたい。 〈地域〉特別な支援の必要な子どもたちへの指 導について、専門的・具体的な指導・助言を行っ てほしい。 地域の中の学校として、地域とのつながりを 大切にしてほしい。		〈保護者〉学校と緊密に連携し、それぞれが担 うべき教育活動への理解と協力をお願いした い。 〈関係機関〉ネットワークを通じて、子どもや 保護者の生活を支えてほしい。 卒業後の進路先としてニーズにあった生活環 境や職場環境を整備いただきたい。 〈地域〉特別な支援の必要な子どもたちへの適 切な指導及び必要な支援の充実に取り組んでほ しい。本校の子どもたちへの理解と協力をお願 いすると共に、本校との連携を図ってほしい。
(3) 前年度の学校 関係者評価等		・ いじめ・体罰アンケートで本当にいじめ・体罰が把握できているのか疑問である。 ・ 不登校傾向の子どもたちが増えている。学校としてどう対応していくのか。 ・ 地元にながら学校の教育活動が地元の人たちに見えていない。 ・ スクールバス車内の様子が保護者にわかりづらい。 ・ 学校祭で全体会場に入れなかった保護者へ何らかの対応ができないのか。 ・ 学校間交流について、高等部と他校との交流の機会を幅広く模索する。 ・ キャリア教育プログラムについては必要に応じて分掌主導で見直しをする。 ・ 危機管理の充実について、各種避難訓練では、想定を見直すなど、より実践的な訓練とする。 スクールバス避難訓練では、校外での保護者への引き渡しを含む訓練も実施を検討する。	

(4) 現状と課題	教育活動	・新型コロナウイルス感染防止のための臨時休業が長期にわたって続き、教育活動が計画通りにはいかない。学びの保障が必要。 ・児童生徒の障がいの多様化、不登校や問題行動等の児童生徒に係る諸課題の捉え方が変化する一方、そのアプローチや対応が定まらず混乱している状況の中で、また、日々の家庭生活・養育上の課題等を抱える家庭もある中、教育のみならず医療機関や福祉機関等との密接な連携が必要な児童生徒が増加している。積極的に関係機関とつながり、必要と思われるときは専門家（SC、SSW等）を派遣要請し、連携する。 ・高等部の生徒増に伴い、さらなる現場実習先・進路先の確保が必要となっている。また、卒業と同時に生活の場を確保しなければならない生徒もあり、卒業後を見通した、福祉機関等との密接な連携が必要である。 ・「生きる力」を育むため、キャリア教育のさらなる定着・充実を推進する必要がある。特別活動も含め、学校での教育活動全般をキャリア教育の視点で捉え直し、改善を進めることが重要である。 ・人と関わることを苦手とする児童生徒が多く、ICTの活用等、視覚的支援や、社会性を伸長するための取り組みを、日常的・計画的・意識的に続ける必要がある。 ・学校間交流をはじめ、外部との交流については、学校を取り巻く状況等が変ってきているので、交流の目的・あり方を見直す時期がきている。
	学校運営等	・施設・設備の老朽化に加え、児童生徒数の大幅増加による教室不足が課題である。教室を確保するために次々と特別教室を無くし、普通教室に変えている。児童生徒にとって安全・安心な学習環境を確保するため、施設・設備の改修・更新・増築が必要となっている。 ・令和元年度末をもって閉舎となった寄宿舎の有効的な後利用が必要である。 ・専門性の向上のため、各部・各分掌がそれぞれで様々な研修を企画実施している。その結果、内容がよく似ていたり、時期が近かったり、様々な理由で参加が難しかったりすることもある。そこで、学校全体として職員研修の目的・内容・実施時期の見直しを行い、参加しやすい研修にしていく必要がある。 ・危機管理の充実について、保護者・地域・近隣施設と連携し見直すなどのより実践的な取り組みが必要である。 ・学校に対し正しい理解をいただくため、受け手の視点を取り入れた情報発信をさらに進めていく必要がある。 ・地域における特別支援教育のセンター的機能を発揮し、特別な教育的支援を必要とする子どもたちへの教育指導や情報発信等に力を発揮することが求められている。 ・教職員の「仕事へのやりがい」は高いが、情報共有、過重労働時間削減等の職場環境の整備に関する具体的な取組課題もあり、労働安全衛生の向上が求められている。

3 中長期的な重点目標

教育活動	・児童生徒や保護者の思い、地域や関係機関及び産業界等の期待をしっかりと把握し、将来の姿を見据えた小学部から高等部までの一貫したキャリア教育を推進する。またその際は各関係機関と連携し、引き継ぎツール等を活用しながら、一人ひとりに応じた教育指導を進める。 ・ICTの効果的な活用を推進する。 ・地域の学校等との交流及び共同学習を幅広く展開し、人権教育を推進する。 ・日々の児童生徒の「生きる力」の基盤となる体力作りを推進する。 ・自他の命を大切にし、社会性を身につけさせ、自尊感情を育みながら具体的な指導を継続して進める。
学校運営等	・慢性的な教室不足の解消にもつながる、令和元年度末で閉舎となった寄宿舎の有効活用ならびに、老朽化した施設設備の整備・充実・長寿命化を進める。 ・特別な支援を必要とする子どもたちの学びについて、どこで学ぶか、何を学ぶか、卒業後の進路等、早期から地元幼保小中学校と連携をする。そして、地域に開かれた特別支援学校としての果たすべきセンター的役割を明確にし、地域の学校等への支援をさらに充実させる。 ・職員の大量退職に伴う大幅な新旧職員の入れ替わりを計画的にすすめ、次の世代への教育財産の継承を円滑に行う。 ・防災・危機管理の想定域を広げながら、「想定外」の事態の一層の縮減に努め、より具体的、実践的な防災訓練、危機管理対応訓練等を地域や関係機関と連携しながら実施し、組織及び教職員一人ひとりの対応力の向上に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組

「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
キャリア教育の充実ならびにICTの効果的な活用	1 キャリア教育プログラムにもとづき、小学部から高等部まで一貫した教育(授業・校外学習・行事・特別活動等)を進める。 【活動指標】 (小学部) ・個々の児童が学習課題に向かうための意欲向上、学習課題定着に向けてICT機器を活用する。 ・ICT機器の使用技術の獲得と向上、後の効果的な活用方法について職員研修を実施。		※

	(教務) ・キャリア教育プログラムに関連した個別の指導計画の作成。 ・個別の指導計画の目標の欄にキャリア教育の観点を記入する。 (図書情報) ・ICT(パソコン・ipad)を活用した授業に取り組む。 ・ICT教育推進のための研修会を実施する。 (進路) ・高等部 校内実習:1年生年2回 現場実習:1年生年1回、2年生年2回、3年生年1回 ・各実習ともに、事前事後学習を行う。目標設定や反省を通して、生徒の将来の生活に対する意識を高める。現場実習中、教員は巡回を行い、生徒の適性を知り、進路決定のための助言・支援を行う。 ・事業所見学、進路懇談会、移行支援会議の実施。 ・パートナーシップ見学会、講演会の開催。 2 環境整備 【活動指標】 (図書情報) ・図書室に本校のキャリア教育に係る書籍コーナーを設置し、自由に閲覧できる環境を整備する。 【成果指標】 ・教員アンケートで、「教育効果を上げるために、コンピュータやインターネット等の利用場面を計画して活用した」が70%以上。 ・卒業一年後の仕事定着率80%以上。		
交流教育の充実	各学部における地域の学校や関係機関との交流及び共同学習 【活動指標】 (小学部) (人権教育部) ・学校間交流の実施 小学部:年4回 メッセージ交流年1回 ・希望者を対象に居住地校交流を実施 (中学部) (人権教育部) ・今年度に限り、学校間交流は中止となったが、次年度は年3回の交流を継続して行く。 ・希望者対象の居住地校交流も今年度に限り行なわない。 (高等部) (人権教育部) ・毎月第3水曜日の7限目に「しゃべり場」を実施 【成果指標】 ・交流及び共同学習について、本校児童生徒および交流相手校児童生徒の肯定的な意見がともに80%以上。	・	※
体力づくりの推進	1 基礎体力の増進 【活動指標】 (小学部) ・からだタイム(水曜を除く週4日)を2時限目に実施し、サーキット運動や校内歩行、リミックスを行う。また、体育(週1時間)で、3つの学習グループに分かれて運動を行う。その他、機会を見つけて中庭遊びや校外歩行を行い、基礎体力作りに取り組む。 (中学部) 毎日2時間目を「朝の運動」の時間と位置づけ、リミックスや10分間走に取り組み、記録会を年1回実施する。また、学級活動でも校外歩行に取り組み生徒の基礎体力の増進に努める。 (高等部) ・いなば園周(1km)を3周走る持久走を毎日実施する。 雨天時の時は、屋内で20分間を実施する。 2 食・健康・保健の授業 【活動指標】 (保健安全部) ・各学部食に関する授業の実施 食事の重要性、心身の健康、食品を選択する力、感謝の心、社会性、食文化を身につかせる。 (小・年3回 中・学部各学年年2回、高・各学年年3回) ・各学部、保健集会や保健に関する授業を行う。 保健に関する基礎的な生活習慣を養う。心やからだの発育や健康状態に気づかせ、健康の保持増進に努力させる。 (小・年2回 中・年2回 高・各学年年2回)		※

	・健康相談を実施し、校医や専門機関との連携をはかり、個人個人に応じた問題解決に努める。(年3回) 【成果指標】 ・各種記録会で、子どもが各自の目標を60%以上達成する。 ・給食の残食の減少。 ・健康に関わる生活習慣(うがい、手洗い、爪切り、洗髪等)が定着する。		
社会性の伸長	1 命を大切にする教育 【活動指標】 (小学部)(人権教育部) ・自他の命の大切さを意識できるような授業を年1回以上実施。 (中学部)(人権教育部) ・学級活動などを中心に命を大切にしていける学習 (高等部)(人権教育部) ・自他を大切にする心情や行動力を身につけるための学習を行う。 ・「薬物乱用防止教室」「生と性の学習」の講演会を実施する。 (全学部)(人権教育部) ・交通安全教室の開催 2 集団のルールやマナーを学ぶ 【活動指標】 (小学部) ・各グループで取り組む日常生活、幾つかのグループが集まって行う合同授業や校外学習等、あらゆる機会を捉えて、社会生活に必要なとなってくるマナーやルールについての学習を行う。 (中学部) ・課題学習の時間や校外学習等の事前学習を通して、社会生活を営む上で、培っていかなければならないマナーやルールについて学習する。 (高等部) ・総合学習や社会生活において進路学習を実施して、社会性の向上に取り組む。 【成果指標】 ・自分の長所が言える児童生徒 55%以上。 ・気持ちのよい挨拶ができる。		※◎
改善課題			

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組

「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
専門性の向上	計画的な研修会の実施 【活動指標】 (研修) 学部内で授業検証やICTの活用について研修を行い、授業改善に取り組む。 ・学部研修では、年に2回各学部の交流を図る機会を持つ。 ・本校のニーズに合った外部講師を招き、全体研修会を年1回開催する。 ・研修会において学部を越えて意見交換できる場を設定する。そのことで職員間のコミュニケーションを図り、学校全体で授業改善に取り組む意識の向上を目指す。 (支援) ・個別の支援計画やプロフィールの活用により実態把握に努める。 【成果指標】 ・学部研修年11回実施 ・外部講師を招いた全体研修会への職員参加率80%以上。 ・年間を通じて研修について、職員満足度65%以上。 ・授業に対する保護者の評価で「よい」が85%以上。		※
開かれた学校への展開	1 授業公開、学年・学部懇談会、学校見学会等の実施 【活動指標】 (小学部)(中学部)(高等部) ・保護者対象の授業参観年2回以上、個別懇談会3回実施する。 (研修) ・年1回授業公開を実施し、広く学校関係者に見ていただく。		※

	(支援) ・センター的機能として「学校見学会」の実施 ・全員支援会議体制の確立 ・「INABA TIMES」の発行 (生徒指導) ・学校祭では、児童生徒の様子がよく見えるように、昨年度より実施している舞台発表の保護者入れ替え制を引き続いて行う。また、この入れ替え制により来場して下さった方々が快適かつ公平に発表を見ていただけるようにする。 2 学校だよりやホームページによる情報提供 【活動指標】 (総務) ・年間行事計画の定期更新 (情報図書) ・学校ホームページの更新 月1回以上 【成果指標】 ・学校の様子がわかると回答する保護者の割合 95%以上。 ・学校への来やすさについて、参加する機会・相談する機会が設けられていると回答する保護者の割合 95%以上。		
危機管理の 充実	1 定期的な訓練の実施 【活動指標】 (保健安全) ・救急救命法講習会の実施 (生徒指導) ・児童生徒、教職員が、命を守るための実践力を身につけるための防災訓練、交通安全教室を実施する。(年2回以上) 2 緊急時の保護者連絡 【活動指標】 (情報図書) ・安心メールを活用した保護者への緊急連絡 (保健安全) ・医療的ケア緊急対応訓練 3 不祥事防止体制の確立 【活動指標】 ・「信頼される学校であるための行動計画」に沿った活動の実施 【成果指標】 ・学校の防災の取り組みについて「取り組まれている」と回答する保護者の割合 96%以上。 ・ヒヤリハット事案について職員間での情報共有ができていると回答する職員の割合 94%以上。		※
働きやすい 環境づくりの 推進	1 総勤務時間の縮減 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 91%以上 ・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 90%以上 ・放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合 81%以上 ・学部間人事交流と校内組織の見直しを実施。 2 退職等による大幅な職員の入れ替わりに向け、教育財産の円滑な継承 【活動指標】 ・職員の年齢構成の適正化を要望 【成果指標】 ・一人当たりの月平均時間外労働時間 30時間以下の範囲内 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・年360時間を超える時間外労働者の人数 0人 ・一人当たりの年間休暇取得日数 4月～12月26日以上 ・新校内組織の確立		※◎
改善課題			

5 学校関係者評価

明らかに なった 改善課題と 次への取組 方向	
-------------------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動 について の改善策	
学校運営 について の改善策	